

令和7年度 ロザリオ幼稚園 自己評価シート

1. 園の教育目標

本園は、キリスト教カトリック精神「愛と奉仕」に基づき、一人ひとりの人格を尊重し、自らを築いていく成長過程において、人的・物的環境を整え、異年齢縦割り混合クラス・同年齢横割りクラスの中で、協調性と思いやり、自主性と責任感、生涯学び続ける姿勢をもった自立した人間に育てることを目標に、心の教育に特別配慮しながら人格形成の基礎づくりを目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

幼稚園の教育課程の内容について教職員の共通理解を図り、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを卒園前アンケートを通して考慮し、家庭と幼稚園が連携して、幼児期の子どもの成長を共に援助できるように努める。

3. 評価項目の達成、及び取り組み状況・反省

(A:十分に成果があった。B:成果があった。C:少し成果があった。C:成果がなかった)

評価項目	取り組み内容	評価	取り組み状況・反省
教育目標	人格形成の大切な時期にあって、異年齢児混合クラス、同年齢児クラス編成を通して、神に祈る心、感謝する心、他者を思いやる心、わがままに負けない強い心、社会ルールを守る正しい判断と責任ある心などを培えるように、心の教育に特別な配慮を行う。	A	幼児が人格形成の時期にあることを教職員一同心に留め、日々の保育の中での具体的な事柄等を終礼でシェアし、教職員が共通理解のもと、幼児教育に携わり、一人ひとりの幼児の心に寄り添えるように努めている。
教育内容	音楽・絵画・体育・リトミック・英語・お茶作法等により質の高い教育内容を目指すとともに、一人ひとりの園児の特性に留意しつつ、教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育てるようなカリキュラムの作成に努める。	A	今年は、年長児を中心に幼児教育から小学校教育への円滑な接続を目的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の項目をランダムに取り上げて取り組んだが、年長児だけでなく、各年齢の段階での取り組みを検討する。
教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊具の定期的な点検・安全確認をし、危険が予想される場合は、速やかに改善していく。 ・園児のモンテッソーリ活動内容の充実。教員の園内研修。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登り棒が2か所あるが、指を詰める可能性のある登り棒を撤去した。総合遊具の塗装を検討。 ・M教育の教具を通して主体的に活動しながら、「自分で学びとる力・自立・生きる力」を身に付けられるように環境を整え、教員の園内研修の必要性を確認した。

子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2歳児の受入れ ・ 2歳児親子教室「バンビーノ」の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度より、本園度、満3歳になる2歳児の受入れを開始した。満3歳児との大きな差はなく、満3歳児が2歳児を世話する様子が見られ、年齢よりは個々の成長発達によるので、2歳児の受入れを拡充する。 ・ 「バンビーノ」教室から満3歳児入園が増え、来年度は、親子教室の見直しをする。
特別支援教育	医療・福祉の関係機関との連携を積極的にとり、配慮を必要とする幼児に対応した個別の指導計画を作成するよう努め、その保護者と幼児の成長をシェアできるように対応する。また、配慮を必要とする幼児の保護者に、必要に応じて、専門機関への通園を勧める。	A	専門機関との連携の中で、特別支援教育に関する知識や情報を教員間で共有するとともに、特別支援コーディネーターを配置するよう努めたい。
安全管理体制	火災・地震の発生に際しての避難訓練を毎月行い、1学期は、訓練日、時間を告知、2学期は、教職員のみ告知、3学期は、園児・教員ともに告知を行わずに避難訓練を実地する。年に1回は、消防署立会いの下に行う。また、避難通路の確認を行う。また、非常時の水・食料の備蓄の期限を把握しておく。	A	避難訓練について、園児は、自由遊びの時間、教室での活動時間、廊下、職員室でもどんな場合、場所でも対応することができている。今年度は、防災頭巾を一度使用して行った。年に一度の、消火訓練も消防署指導の下に教員一同行っている。AEDの使用法も毎年続けて行うようにする。
保護者への対応	就労する保護者のために、幼稚園行事が把握しやすいように、行事予定や松山市からの保健だよりをアプリを通して配信するようにしている。今後も必要に応じた事柄を検討する。	B	卒園前アンケートより、給食日を増やしてほしいとの願いがあり、検討し、もう一日、給食日を増やすこととする。また、時期を見て、欠席やバスキャンセル、預かり等の知らせをアプリでできるように検討する。また4月の預かり保育日を増やすようにする。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	日々、子どもたちの心に寄り添いながら、子どもたちが思いやりをもって、自分で物事を考え、主体的に活動できるように自立心を援助し、見守ってきた。外部の方々から、園児の穏やかさ、優しさ、積極的な態度について特別な評価をいただき、心の教育を基礎に置くことの大切さを感じている。また、毎年、年長児保護者に対して卒園前のアンケートを実施し、幼稚園経営・管理・教育活動について、多くの良い評価

	<p>とともに保護者からいただいた提案については、耳を傾けて検討し、前向きに取り組むようにしている。子育ては、保護者との連携が必要なので、保護者の心にも寄り添い配慮し、子育てをするロザリオファミリーとしての幼稚園を目指したい。</p>
--	---

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
<p>小学校入学までに子どもたちが身につけてほしい10の資質・能力を指し示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を具体的に取り組む。また、保護者からの提案を検討し、具体化する。</p>	<p>学校教育の始まりとしての幼稚園教育として、今年は、10の姿のうち、8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚：遊びの中でこれらに親しみ、活用する。9)言葉による伝え合い：豊かな言葉で経験や考えを伝え、相手の話を聞く。これらを、各学年で保育の中で意識するように努め、日々の体験を通じて、感じたり、気付いたり、分ったり、できるようになるための援助を行い、子どもの意欲、自信に繋げる。</p> <p>保護者からの提案として、給食日を週4日とする。</p>